

いきごみ通信



江戸川区生ごみ堆肥化実践クラブ
〒132-0033 江戸川区東小松川 3-35-13-204
電話・FAX 03-3655-1387
ホームページ：<http://www.ikigomi.jp/>

2月24日 バス見学会 『命めぐる農場』を訪ねる



生ゴミ・山の落ち葉・植木屋の木クズや枝のチップ。そこに家畜の糞尿を混ぜて切り返しを行い、1年以上熟成。微生物たっぷりの、農作物に最高の堆肥ができるそうです。

小川町・霜里農場は五十年前にタイムスリップしたような何とも懐かしい農村でした。江戸川区から2〜3時間で行ける距離ですが、この地域には循環型社会が実現していました。生ゴミは液肥（バイオガスによる）を堆肥にし、そこから出るメタンガスも利用しています。落ち葉・もみガラ・稲わら・麦わら・植木クズ・鶏糞・牛糞などすべての物を循環させ利用しています。また有機農業だけでなく、生活エネルギーも廃食油をバイオディーゼル燃料

として乗用車・トラクター等に、勿論自然エネルギーである太陽電池も利用し、踏み込み温床で出る発酵熱をも活用して、まさしくすべてが自然の力を借りて、適正に循環しており負荷の少ない生活が実現していました。



バイオガス
温床は藁で囲った中に、落ち葉・米ぬか・牛糞・藁等を入れて水を加えて踏み込み発酵させています。最初は50℃程になりますが、30℃程に安定させて苗を育てます。春になって苗床の役目が終わると、堆肥として使います。

生ごみ・家畜の糞尿等が、地中に埋められたバイオガスの発酵層に投入されます。空気のないところで嫌気性発酵が行われ、バクテリアに分解された糞尿は液体肥料とメタンガスに変換されます。液体肥料は畑や田んぼに、メタンガスは湯沸し等に使います。

霜里農場では、至難の業と言われる無農薬栽培の苺が赤く実っていました。通常苺は収穫までに三十〜四十回もの農薬散布が行われるとのことには驚きました。農薬と書きますが薬ではなく農毒薬です。

四十年前から有機農業を続けている農場では夏には虫が舞い、土中には1gに1兆個もの微生物や小動物が棲み、害虫や土着天敵・野鳥など多くの命が共存する多様な生態系が農業を支える、まさに『命めぐる農場』です。



* 私たちの現実 *

私たちの日常生活は一方通行の、食料を購入する↓食べる↓ゴミ↓焼却↓埋め立て、これが本来循環しているものです。物質的にも恵まれて食生活も良くなり飽食の時代と言われ、幸せと思われるのですが決してそうではなく、環境に負荷を与えて如いては私たちの身体にも負荷を与えているのです。だからこそ生活を見直す必要があります。出来る事から取り組みたいのです。

・自然が循環するということは、こういう言う事だと分かりました。

・農業は奥が深いです。メラメラ意欲が湧いてきます。

・奇人変人とされていた方の長年の地道な努力と信念が地元全体の農業や産産を動かす原動力になり、日本の農業を見直すきっかけになっていてる現場を見学させていただきました。有意義なツアーでした。



命めぐる農場で記念撮影 47名参加

※ 区長賞受賞!

☆中村美里子さんおめでとうございます。

生ゴミからできた土で「みどりのカーテン」

◆ ベランダで簡単にできる生ゴミ堆肥作り ◆

用意するもの

- ・ゴミ箱 (縦長の方が良い) ・ふた用の布 ・ゴム紐
- ・腐葉土 (ゴミ箱半分位) ・米ぬか ・枯葉 ・枯草
- ・段ボール箱 ・シャベル ・その他

準備

1. 腐葉土 (未熟堆肥) はカラカラに乾燥します。(段ボール箱なら3回目以降必要ない)
2. 生ごみを細かく切り、水気を絞る。

真冬でも 52° !



作り方

1. ゴミ箱に底が見えないほど (3 cm) の腐葉土を入れます。
2. 水分を飛ばした野菜クズなどを入れます。(新聞紙やザルなどで一晩水切り)
3. 手に入れば米ぬか (発酵促進剤として) をゴミにまぶし入れます。
4. 3に腐葉土を入れよく混ぜます。さらに生ゴミが見えないぐらいの腐葉土をかぶせ、ゴミ箱の上を布でおおいゴムで止めます。
5. 2. 3. 4. を繰り返します。ゴミ箱八分目になったら、段ボール箱に移します。
6. また1から繰り返します。出来た堆肥は腐葉土として使用できます。



虫よけに布をかけゴムで止めるだけで暖かい場所に置きます。臭いは殆どありませんが、気になる場合は枯葉や乾いた堆肥を入れてください。

段ボール箱の周りは壁等に触れないように工夫をします。段ボール箱に移すと水分はすぐに抜けていき分解も早いです。

未熟堆肥は腐葉土の代わりに使用できます。

ゴミ箱・段ボール箱各1個ですから大変便利でオススメです。